



第4章 | 構成団体



魅力いっぱい
ギョッ♥と千葉



県営水道創設期に建設された栗山配水塔（松戸市、国登録有形文化財）

千葉県の概要

本県は、古くは上総、下総、安房という三国からなり、温暖な気候と三方を海に囲まれた豊かな自然の恵み、東京・江戸に近いという地の利を生かした農業・水産業・醸造業によって発展してきました。

現代に入り、日本を代表する工業地帯の形成、成田空港の開港、京葉道路の開通などによって地域経済の活性化がもたらされ、人口は現在全国第6位、商業・工業・農業・水産業全ての分野で全国屈指の規模を誇る県となっています。

県内には、水道用水供給事業を運営する事業者が北千葉広域水道企業団を含め6事業者あり、また、水道事業を運営する事業者が千葉県企業局を含め39事業者あります。

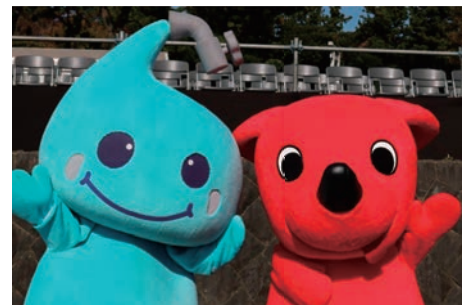
本県では、将来にわたり県民に水を安定して届けられるよう、様々な課題に取り組んでおり、その1つとして、水道事業の統合・広域連携を進めているところです。

具体的には、リーディングケースとして取り組んでいる九十九里地域・南房総地域の水道用水供給事業者と県営水道の統合について、令和7年度の統合を目標として協議を進めており、また、末端給水事業者については、本県において令和5年3月に策定した「千葉県水道広域化推進プラン」をもとに、引き続き検討・協議を進めることとしています。

最後に、今年は千葉県が誕生してから150周年を迎える節目の年で、この機会に豊かな自然や多様な文化資源などの千葉県の魅力を発信していきます。



新旧県庁舎



県営水道マスコットキャラクター「ポタリちゃん」と千葉県マスコットキャラクター「チーバくん」



本土寺（小金地区）

松戸市の概要

本市は都心から20km圏に位置し、さらに千葉県の東葛地域（北西部）の一翼に位置しています。

西側には江戸川を挟んで東京都葛飾区、江戸川区、埼玉県三郷市に隣接し、市域の面積は61.38km²で、東西11.4km南北11.5kmと、ひし形状に広がり、令和5年5月1日現在人口は497,130人となっております。また、市内には斜面林などの樹林地や街路樹、水やみどりの多彩な資源に恵まれており、台地と低地、谷津で形成される地形は起伏に富み低地部を中心に12の一級河川と9の準用河川が流れるなど、まさに豊かな表情を生み出しています。

市内の観光名所として戸定邸があります。明治17年、江戸幕府最後の将軍徳川慶喜の実弟徳川昭武が戸定邸を建てて松戸に移り住みます。戸定邸は、明治前期の大名華族の邸宅で建築当初の建物の大部分が現存する全国的にも数少ない貴重な事例として、平成18年に国の重要文化財に指定されています。



戸定邸



常盤平団地（常盤平地区）

松戸市水道事業の概要

本市の上水道は3事業者により給水が行われており、小金地区と常盤平地区は市営水道、根木内の一部は、流山市水道事業、その他の地区は江戸川の表流水を水源とする県営水道により給水されています。

初めて本市に水道がひかれたのは昭和11年、県営水道による当時の松戸町です。その後、昭和37年に水利が悪い小金地区に初めて市営水道による給水が開始され、現在の給水人口は59,113人、一日最大給水量は16,946m³となっております。また、常盤平地区については、昭和34年に日本住宅公団の経営により給水を開始した常盤平団地水道が、昭和45年に本市へ経営が委譲され現在に至っています。また、現在の給水人口は21,074人、一日最大給水量は6,502m³となっております。



松戸市水道部キャラクター まっぴい〜



野田市

健康スポーツ文化都市
Well-being Sports Culture City



四季折々の姿を見せる江戸川

野田市の概要

本市は、千葉県の最北端に位置し、面積は、103.55km²、令和5年3月末現在の人口は、153,600人です。

三方を利根川、江戸川、利根運河に囲まれ、市の北部は関宿藩の城下を中心に、南部は醤油醸造業を軸として発展し、今でも市内には歴史や文化を伝える建物などが点在しています。

また、太平洋戦争を終戦へと導いた鈴木貫太郎元内閣総理大臣や“近代将棋の父”とも呼ばれる関根金次郎十三世名人を輩出し、市内各地のゆかりの地を巡っていただくこともできます。

現在は、自然再生、生物多様性に積極的に取り組んでおり、特に減農薬のために黒酢を散布した「黒酢米」の生産により、多くの生きものが田んぼに戻ってきています。本市では、多くの餌となる生きものがいないと生きていけないコウノトリをシンボルとして、たくさんの生きものが息する自然環境を「まもる・いかす・たのしむ・つなぐ」ことを実践しています。



いつかは野田市生まれのコウノトリが全国の空に

さらに、令和5年4月1日には、「健康スポーツ文化都市」を宣言しました。

スポーツや文化活動を通じて人と人との交流を深め、人間力を育み、さらには人づくりまちづくりにつなげて、「夢のある住みよいまち」「元気で明るい家庭を築けるまち」を目指しています。

野田市水道事業の概要

本市の水道は、「野田醤油株式会社（現：キッコーマン株式会社）」が、大正12年に千葉県下で最初の水道施設として通水したのが始まりです。その後、上花輪浄水場が完成し、長い間民間企業の水道として、工場の余水が市民に給水されました。

市営水道事業がスタートしたのは、市の施設として東金野井浄水場が完成するとともに、キッコーマン株式会社の水道施設を買収し、市内水道を一本化した昭和50年4月1日です。

その後、昭和54年に北千葉広域水道企業団より受水を開始しました。令和4年度末の給水人口は、149,071人、年間給水量は15,137,884m³で、うち北千葉広域水道企業団からの受水は13,992,395m³で、92.4%を占めています。

現在、令和元年度に策定した「未来構想 水道ビジョン野田（経営戦略）」に基づき、管路や施設の老朽化対策に重点をおきつつ、水需要の促進のため Mascotキャラクターなどを用いたPRの強化にも取り組んでいます。

また、令和4年度には新たな管路更新計画を策定したところであり、今後、計画的に管路の更新を推進し、将来にわたり安全で安心な水道水をいつでも安定的に供給してまいります。



すいっぴー・みずかちゃん・ロボカンがおいしい水をPR

柏市



手賀沼

柏市の概要

本市は、昭和29年9月に東葛市として市制を施行しました。

その後、同年11月に柏市に名称変更を行い、平成17年3月には沼南町と合併、平成20年4月からは中核市へ移行し、現在に至っています。

本市の特徴は、千葉県の北西部に位置し、面積は114.74km²、人口は令和4年度末時点で約43万人、鉄道は都心から放射状に常磐線及びつくばエクスプレス、南北には東武アーバンパークラインが通っており、道路は常磐自動車道や国道6号線、国道16号線が通っており、交通の要衝となっています。

その他の特徴としては、平坦な地形を活かし農業も盛んに行われていて、柏の三大野菜である「かぶ・ねぎ・ほうれん草」は全国トップレベルの生産量を誇り、「いちご・なし・ブルーベリー」も柏の三大フルーツとして有名です。

スポーツの分野も盛んで、市内には柏レイソルやENEOSサンフワーズ等全国レベルで活躍するチームの活動拠点が、これらの各チームは、スポーツを通して地域の活性化と市民の交流を図る「スポーツによるまちづくり」を推進するシンボルとなっています。

また、本市には、自然・産業・賑わいなど、地域ごとに特徴があり、多様な魅力が集積しています。

- (1) 北部エリア 「公・民・学」連携を実践する組織及び拠点である柏の葉アーバンデザインセンターを中心に、柏の葉スマートシティなどの先進的な取り組みを進めています。
- (2) 中央部エリア 柏駅周辺には、多くの商業施設や飲食店等が立地し、買い物客で賑わっています。また、商店会等が主体となったイベント等も数多く行われています。
- (3) 東部エリア 豊かな自然が残る手賀沼は、サイクリングやウォーキング等スポーツが盛んに行われています。また、野菜の生産地として近郊農業も発展しています。体験型・参加型の事業も始まりつつあります。
- (4) 南部エリア 文化や歴史、緑があふれるエリアです。街中で自然に触れることができ、良質な住環境が整っています。

柏市水道事業の概要

本市の水道は、昭和29年に地下水を水源とした事業認可を受け、昭和30年に給水開始しました。昭和42年には地方公営企業法の全面適用を受けるとともに水道部として独立採算による組織体制を整備しました。

その後、急激な人口の増加と都市化の進展による水需要の増加に対応するため、6度にわたって拡張事業を行い、水源地の建設や水道管の増設など水道施設の整備を推進してきました。

その結果、令和4年度末時点において、給水人口は約41万人、年間総配水量は約42百万m³（自己水源16%、受水84%）の事業規模となっています。

また、本市の水道関連施設の状況は、水源施設が市内に5か所、導水管、送水管及び配水管を合わせた総延長は約1,458km（令和4年度末時点。総延長は、柏市から鹿児島県の与論島までの直線距離に相当します。）であり、令和5年度における主要事業としては、水源施設及び管路の耐震化・老朽設備の更新工事を進めるとともに、柏市北部地域での土地区画整理事業に伴う新設管の布設工事を行っています。

これらの事業の推進に当たっては、柏市水道事業ビジョンで掲げた基本理念である「生命（いのち）の水を未来につなぐ柏の水道」に基づき、この理念の実現のための基本目標である「強靱」「安全」「持続」の3つの観点を踏まえた計画的な事業を推進することとしています。

その他、令和3年度には新庁舎を竣工し、令和4年4月からは下水道部門との組織統合を行い、柏市上下水道局として新たなスタートを切りました。事業統合により、経営の効率化、職員の技術力の向上及び災害対応の強化を図り、水道事業の基盤強化に努めてまいります。



柏市上下水道局庁舎



柏レイソル



都心から
一番近い
森のまち

流山市
Nagareyama City



利根運河

流山市の概要

流山市は、千葉県北西部に位置し、昭和42年1月1日に千葉県20番目の市として誕生しました。面積は35.32km²と千葉県内の市としては5番目に小さいまちですが、西に江戸川、北には利根運河が流れ、緑豊かな水景が楽しめる他、市内にはオオタカが生息する市野谷の森をはじめとした森や公園が400か所以上と、自然と一緒に生活ができる住宅都市です。



市の鳥オオタカ

かつては、江戸川や利根運河を利用した水運で栄え、白みりん発祥の地として知られています。



万本本みりん

他にも、幕末時代に、新選組が陣を敷き、新政府軍に囲まれ投降を決意した近藤勇と、戦友土方歳三との今生の別れの地となった歴史があります。当時、近藤が陣を敷いたといわれている「近藤勇陣屋跡」は、市内外から多くの方が訪れる観光名所となっています。

現在の人口は約21万人で、平成17年のつくばエクスプレス開通以降、10年間で約4.2万人増加しました。特に子育て世代の増加が顕著で、令和3年の合計特殊出生率は1.56と、全国値1.30を大きく上回っています。

そのため本市では、子育て環境の整備に積極的に取り組んでおり、中でも、流山おおたかの森駅と南流山駅から市内の認可保育園までバスで子どもたちを送り迎える「駅前送迎保育ステーション」は、全国的にも注目を浴びています。

流山市水道事業の概要

本市の水道事業は、昭和37年に流山水道として創設され、昭和38年から流山地区に給水を開始しました。その後、東部水道の創設、統合、江戸川台水道の買収・統合などを経て、第3次拡張より流山市水道事業となりました。

現在、つくばエクスプレス沿線整備による更なる人口の増加が見込まれることから、計画給水人口を211,800人、計画一日最大給水量を64,400m³とする第8次拡張の認可を令和4年2月に受け水道事業を行っています。

令和4年度末の給水人口は約20万9千人、年間給水量は19,952,524m³です。その内、約8割が北千葉広域水道企業団からの受水によるもので、残りの約2割が市内の井戸水です。

現在は、令和3年3月に策定した流山市水道事業基本計画（流山市水道ビジョン）の基本目標である「市民への安全な水の安定供給をいつまでも」を目指して事業を進めるとともに、令和5年3月に改定した流山市水道事業経営戦略に基づき低廉で持続可能な水道事業運営を図っています。施設整備では、おおたかの森浄水場の配水池の新設、計画的な配水管の更新及び耐震化に取り組んでいます。



流山市上下水道局庁舎



手賀沼親水広場・水の館



手賀沼花火大会

我孫子市の概要

我孫子市は、昭和45(1970)年7月に千葉県で22番目の市として誕生し、手賀沼と利根川に囲まれた自然豊かな住宅都市として発展してきました。古くから「白樺派」をはじめとする多くの文人を惹きつけてきた風光明媚な手賀沼は、今も憩いの場、アクティビティの場として多くの人々に親しまれています。そして、手賀沼の周辺には、文人たちの旧居や執筆作品が残り、我孫子市の大切な文化遺産となっています。



白樺カレー

さらに令和5年は、布佐小・我孫子第一小、令和6年には湖北小が創立150周年を迎えます。それぞれの学校には、岡田武松博士、秋谷七郎博士、血脇守之助先生、中野治房先生など、各分野の先駆者となり時代を率いて今の日本を作った方々が卒業生として、名前が残されています。

長い歴史の中で、こうした先人たち、先輩たちが残した地域の歴史や伝統、文化を誇りに思い、教育にける熱い思いを次の世代に紡ぎながら、大切な財産を残すことができるよう努めています。

現在、我孫子市は人口減少、少子高齢化、公共施設の老朽化など多くの課題を抱えています。厳しい財政状況は続きますが、今後も安心して住み続けられるまちづくりを進めることで、「選ばれる魅力あるまち」を目指していきます。



竹内神社祭礼



手賀沼エコマラソン

我孫子市水道事業の概要

我孫子市の水道事業は、昭和41年3月に事業認可を受け、市域の3分の2にあたる我孫子及び湖北台地区の給水を対象に、地下水を水源とする湖北台浄水場の建設に着手し、昭和43年10月に一部給水を開始することとなりました。

本市は、昭和45年7月の市制施行に伴う人口急増に対応するため、昭和46年3月に第1次拡張事業認可を受け、全市域を給水区域とする拡張事業に着手しました。一方で、千葉県では地盤沈下防止対策のための条例が施行され、地下水の汲み上げに制限を受けることとなり、本市では、地下水以外の水源を求めるため、昭和48年3月に設立した「北千葉広域水道企業団」からの受水を水源として拡張事業認可を受けることとなりました。

第2次拡張事業では、久寺家浄水場・妻子原浄水場及び水運用管理センターをそれぞれ建設し、同企業団からの受水により増加する水需要に対処してきました。

その後、昭和58年8月には第3次拡張事業の認可を受けて、本市に隣接する茨城県取手市の一部地区を給水区域に編入した他、配水管網等の拡張整備を行いました。さらに平成2年4月には、湖北台浄水場の浄水処理方法をオゾンと活性炭による高度浄水処理に変更することを主な内容とする第4次拡張事業の認可を受けました。

なお、本事業における湖北台浄水場高度浄水処理施設は、平成7年4月に本格稼働し、以来本市の貴重な自己水源である地下水の安定確保に重要な役割を果たしています。

近年の本市水道事業は、平成30年度に見直した「我孫子市水道事業基本計画」及び「我孫子市水道事業ビジョン」に掲げる水道事業の理想像である「安全」「強靱」「持続」の実現に向け、水道施設の耐震化や老朽化施設の計画的更新等の諸事業を進めています。



習志野市



谷津干潟

習志野市の概要

習志野市は、昭和29年8月1日に千葉県で16番目の市として誕生しました。令和3年度末現在、20.97km²の市域面積に、1日乗降者数約8万人を誇るJR津田沼駅をはじめ3路線7駅、約175,000人が住む千葉県北西部に位置するコンパクトな市として、令和6年に市制施行70周年を迎えようとしています。

明治時代には、騎兵連隊・鉄道連隊が置かれるなど、軍隊の町として発展してきましたが、戦後、旧軍用地の転用が進み、大学などの教育施設や商工業施設、住宅街が形成される中、昭和45年3月に「文教住宅都市憲章」を制定しまちづくりの基本理念としました。以後、時代を彩る都市空間とラムサール条約登録湿地の谷津干潟をはじめとした心安らぐ自然が調和したまちづくりを展開しています。また、音楽のまちとしても知られ、市立習志野高校をはじめとした市内の公立学校では各校の特色を活かし、毎年、全国コンクールで優秀な成績を収めています。平成26年には、市制施行60周年を記念し、ご当地キャラクター「ナラシド」も誕生しました。



ナラシドウォーター

習志野市水道事業の概要

習志野市域では、歴史的な背景から市内の中央部を走るJR総武線を境として、南側を千葉県企業局が給水区域に、北側市域と船橋市の一部を習志野市企業局が習志野市営水道の給水区域としています。

習志野市水道事業は、昭和24年に当時の国立習志野病院が管理していた旧陸軍の給水施設（現在の第1給水場）を旧大蔵省より借り受け事業開始いたしました。

その後、安定水源の確保を目的に昭和47年度に北千葉広域水道企業団に加盟し、54年度から受水を開始しています。本市の水源は約半分

を企業団からの浄水受水で、残りの約半分を保有する19か所の井戸から汲み上げた地下水で賄っています。令和3年度末現在、給水人口は110,947人、年間有収水量は11,467,483m³です。主要な施設は、2つの浄水場と3つの配水場、水道管路延長約318kmとなっています。

また、近年は情報発信に力を入れており、本市への定住促進や本市企業局に対する愛着醸成に繋げるため、令和3年度から4年度にかけて、魅力発信動画を制作するとともに、ブランドメッセージを「わたしが支えるあしたの暮らし」と定め、併せてロゴマークを作成しました。この動画は、YouTubeで公開しているほか、DVDを作成し市内小学校に学習用教材として配布しています。動画を見た児童・生徒が将来、本市企業局で水道事業を担ってくれる日を楽しみにしています。

現在、全国の水道事業者の多くは、有収水量の減少による給水収益の悪化や、施設の老朽化に伴う更新費用の増大といった、様々な経営課題に直面しています。こうした課題に対して、令和2年3月に策定した習志野市水道事業経営戦略に則り、計画的な施設更新と経営改善に取り組んでいます。今後も、ライフラインを支える習志野市企業局として、北千葉広域水道企業団のお力をいただきながら、安定供給、健全経営に努め、お客様の「あしたの暮らし」を支えていく決意です。



第4給水場

八千代市

いつでも
どんなときでも
安全な水が届くまち



新川

八千代市の概要

本市は昭和42年1月1日に旧八千代町が市制を施行して誕生しました。場所は千葉県北西部に位置し、東京都心から東に約31km、千葉市中心部から北に約13kmにあります。面積は51.39km²、令和5年3月末現在の人口は204,818人です。

江戸時代には成田街道（佐倉街道）における参勤交代や成田参詣のための中継地点として大和田宿が形成され、現在も市の南部を京成本線が、ほぼ中央を東葉高速線が横切るように通じており、古くから下総地区と東京とを往来し続ける人々の拠点として歩み続けてきました。そのような本市に相応しい特色のひとつとして、昭和32年には八千代台団地が完成し、日本の住宅団地発祥の地として知られております。

本市の中央を南北に流れる新川には遊歩道が整備され、都心に近接しながら、四季を通じて豊かな自然を楽しむことができます。特に3月下旬から4月には新川千本桜の花が咲き、見どころとなっています。

その他ミスターローズと呼ばれたバラの名産種家、鈴木省三氏がバラの品種改良に尽力したことで知られる京成バラ園や、千葉県の無形民俗文化財の下総三山の七年祭り（高津比咩神社・姫君）、数千発の花火が夏の夜空を彩る八千代ふるさと親子祭など、観光面でも多くの魅力を擁しております。

また、千葉県有数の梨やニンジン、ネギなどの産地でもあり、道の駅やちよをはじめ、市内各所で多くの方に提供されております。



八千代ふるさと親子祭り



京成バラ園



上下水道局庁舎

八千代市水道事業の概要

本市の水道事業は、地下水を水源として昭和40年に認可を取得し、昭和42年4月1日に中央浄水場の一部完成により供用を開始しました。令和5年3月末現在、計画給水人口は203,500人、1日最大給水量59,400m³の事業認可のもとで水道事業を行い、北千葉広域水道企業団よりの年間受水量は10,593千m³、受水量混合率は54.6%となっております。

本市の水道普及率は既に99%を超えており、拡張から改良の時代へと移りました。近年は石綿セメント管の更新事業を完了し、非耐震管の更新を順次進めており、令和4年度末の管路の耐震化率は62%となっております。また、浄・給水場の老朽化も進行しており、今後も施設の老朽化対策や耐震化に多額の事業費を要する一方で、節水機器や節水意識の高まり、将来的な人口減少により水需要は減少し、給水収益の確保が困難となる見通しです。

事業を取り巻く環境が厳しくなる中で、将来にわたり安定的に事業を継続していくため、平成30年に、浄・給水場の統廃合等の計画を定めた「八千代市水道施設再構築基本計画」及び管路の計画的な更新計画を定めた「八千代市水道管路施設耐震化計画」を策定し、また、令和元年には平均で8.57%の水道料金改定を行いました。さらにこれらの事業の変化を踏まえて、「第2次八千代市水道事業経営戦略」を策定し、「持続」「安全」「強靱」を基本方針とした事業を計画的に推進することとしています。